

学級活動・国語科	「学級びらき」「ひらがな名探偵ゲーム」	
1 学年	実施の時期 実践者	平成15年4～8月 鳴瀬町立小野小学校 三浦 美穂

◎実施の概要

1 学期の段階なので、国語のひらがなの学習や学級活動などで、楽しみながら新聞と触れ合えるように新聞を使ったゲームを通して実践を行った。

①学級活動

学級びらきの際に、「新聞に何人乗れるかな」というゲームを行った。1年生の4月の段階なので、新聞を読むことよりも、新聞を使ったゲームをしながら新聞を身近に感じさせることから学習に入った。このゲームは、新聞に何人乗れるかを競うゲームなので、新聞が破れてしまうことが何度かあったが、ゲームの合間に新聞の写真や絵を見ては、その内容についてグループで楽しく話している姿が見られた。ゲームが終わった後は、新聞を細かくちぎってビニール袋に入れ、ボール状にしてボール回しゲームをした。

5 月には、「長いのはどっち?」というゲームを行った。グループの友だちと協力しながら、新聞がちぎれないように長くやぶってのばしていくゲームである。やぶれないように気をつけながらやらなければいけないゲームなので、グループで協力し集中して行っていた。やぶった新聞は、セロハンテープでもとにもどし、その後の国語の学習で使用しようと考えたが、1年生には難しかった。

7月のお楽しみ会では、ちらしを使って輪かざりを作った。

②国語「ひらがな名探偵ゲーム」

6月～8月には、グループに分かれて、指定した文字を探すゲームを行った。ただひらがなを探すのではなく、グループ対抗形式で行い、学級のお友だちの名前や学校にあるものなどから文字を出題したので、子どもたちは大変意欲的に活動していた。また、ひらがなの習得が不十分な子どもでも、グループの友だちに教えてもらいながら楽しんで学習を行うことができた。子どもたちからは、「初めて新聞を読んだ」「新聞を読んだみたい」「新聞ってこんなことが書いてあるんだ」などの感想がたくさん出た。

◎実践を振り返って

子どもたちの新聞への興味・関心は思った以上に高く、授業以外でもNIEルームに足を運ぶ子がたくさんいた。もともと本が大好きな子どもたちなので、新聞にもすんなりと入っていったようである。休み時間には、新聞で作ったパズルをやったり壁新聞を見たりするなど、新聞は楽しいと喜んで嬉しそうに報告してくれた。

今回行った実践は、新聞を使った遊びが主だったので、読むという段階まではいかなかったが、新聞に触れることで、少しでも新聞を身近に感じる事ができたようである。子どもたちからは「家に帰ったら新聞を見てみよう」という声が聞かれたので、今後も新聞に触れる機会を多くしていきたいと思う。